

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 18 年 10 月 5 日 (2006.10.5)

【公表番号】特表 2002-523925 (P2002-523925A)
 【公表日】平成 14 年 7 月 30 日 (2002.7.30)
 【出願番号】特願 2000-565644 (P2000-565644)
 【国際特許分類】

H 0 4 L 12/28 (2006.01)

G 0 6 F 13/00 (2006.01)

H 0 4 L 12/24 (2006.01)

【F I】

H 0 4 L 12/28 2 0 0 Z

G 0 6 F 13/00 3 5 3 V

G 0 6 F 13/00 3 5 7 A

H 0 4 L 12/24

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 8 月 3 日 (2006.8.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第二情報処理サブシステムに結合されている第一情報処理サブシステムを有する情報処理システムであって、

- 前記第一サブシステムが、前記第一サブシステムに属する第一リソースを少なくとも登録する第一レジストリを有し；
- 前記第二サブシステムが、前記第二サブシステムに属する第二リソースを少なくとも登録する第二レジストリを有し；
- 前記第一サブシステムが、前記第一レジストリに登録されている第一プロキシクライアントを有し；

そして、前記第二サブシステムが、前記第一プロキシクライアントと通信しかつ前記第二リソースにアクセスする第二プロキシサーバを有する、情報処理システム。

【請求項 2】

- 前記第二サブシステムが、前記第二レジストリに登録されている第二クライアントを有し；

そして、前記第一サブシステムが、前記第二プロキシクライアントと通信しそして前記第一リソースにアクセスする第一プロキシサーバを有する、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 3】

前記第一サブシステムが、第一 PC を有し、かつ前記第二サブシステムが、第二 PC を有する請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 4】

- サブシステムに属するリソースを登録するレジストリと；
- メッセージを放送するブロードキャストモジュールと；
- 他の情報処理サブシステムが前記メッセージを受信したことに応答して、前記他の情報処理サブシステムから応答を受け取り、かつそこにプロキシクライアントを生成するプロ

ードキャストリスナと；

を有する情報処理サブシステムであって、

- 前記プロキシクライアントが、前記サブシステムが前記他のサブシステムに属する他のリソースにアクセスするために、前記他のサブシステムの代表として前記レジストリに登録されているシステム。

【請求項 5】

前記他のサブシステムが前記他のサブシステムから別のメッセージを受け取ることに応答して、前記他のサブシステムが、前記サブシステムに属する前記リソースにアクセスすることを可能にするために、プロキシサーバを生成するポートリスナを更に備えている、請求項4に記載のサブシステム。

【請求項 6】

PCを有する、請求項4に記載のサブシステム。

【請求項 7】

第二情報処理サブシステムに登録されている第二リソースを第一情報処理サブシステムと共有することを可能とする方法であって、

- 前記第一サブシステムが、前記第二サブシステムへのアクセスについて知らされることが可能であり、そして
- 前記第一サブシステムから前記第二リソースへのアクセスに対し、前記第二リソースへの第二インタフェースを前記第一サブシステムに登録することが可能である方法。

【請求項 8】

前記第一サブシステムが、前記第二サブシステムへのアクセスについて知らされることが可能であり、

- 前記第二サブシステムが、IPアドレスとポート番号を有するメッセージを放送することが可能であり、
- 前記第一サブシステムが、前記メッセージに응答して、前記ポート番号によって示された前記第二サブシステムのポートと通信するプロキシクライアントを設定することが可能であり、そして
- 前記第二サブシステムが、前記第二リソースにアクセスする前記プロキシクライアントからのリクエストを扱うプロキシサーバを設定することが可能である、請求項7に記載の方法。

【請求項 9】

- 前記第一サブシステムに登録された第一リソースを前記第二サブシステムと共有することが可能であり、

- 前記第二サブシステムが、前記第一サブシステムへのアクセスについて知らされることが可能であり、そして

- 前記第二サブシステムから前記第一リソースへのアクセスに対し、前記第一リソースへの第一インタフェースを前記第二サブシステムに登録することが可能である、請求項7に記載の前記方法。

【請求項 10】

- 前記第一サブシステムが、前記第二サブシステムへのアクセスを知らされることが、可能であり；

- 前記第二サブシステムが、IPアドレスとポート番号を有するメッセージを放送することが、可能であり；

- 前記第一サブシステムが、前記メッセージに응答して、前記ポート番号によって示された前記第二サブシステムのポートと通信するプロキシクライアントを設定することが可能であり；そして、

- 前記第二サブシステムが、前記プロキシクライアントから前記第二リソースへのアクセスに対するリクエストを扱うプロキシサーバを設定することが可能であり；そして、

- 前記第二サブシステムが、前記第一サブシステムへのアクセスについて知らされることが可能であり；

- 前記第一サブシステムが、別のIPアドレスと別のポート番号を有する別のメッセージを放送することが可能であり；
- 前記第二サブシステムが、前記別のメッセージに応答して、前記別のポート番号によって示された前記第一サブシステムの別のポートと通信する別のプロキシクライアントを設定することが可能であり；そして、
- 前記第一サブシステムが、前記別のプロキシクライアントから前記第一リソースへのアクセスに対する別のリクエストを扱う別のプロキシサーバを扱うことが可能である、請求項9に記載の方法。

【請求項 1 1】

前記第一および第二サブシステムが、各々、各PCを有する請求項8に記載の方法。

【請求項 1 2】

前記第一および第二サブシステムが、各々、各PCを有する請求項10に記載の方法。

【請求項 1 3】

- 第一情報処理サブシステムが、第二情報処理サブシステムに登録されているリソースのアドレス指定を行うことを可能にする方法であって、
- 前記第二サブシステムと通信する、前記リソースを代表するプロキシクライアントを前記第一サブシステムに生成することが可能であり；
 - ローカルリソースとして前記プロキシクライアントを前記第一サブシステムのレジストリに登録することが可能であり；
 - 前記プロキシクライアントからのリクエストを取り扱うプロキシサーバを前記第二情報処理サブシステムに生成することが可能である、方法。

【請求項 1 4】

- 前記第二情報処理サブシステムが、前記第一情報処理サブシステムに登録された別のリソースをアドレス指定することを可能とする方法であって、
- 前記第一サブシステムとの通信に対する前記別のリソースを代表する前記別のプロキシクライアントを前記第二サブシステムに生成することを可能とし；
 - 別のローカルリソースとして前記別のプロキシクライアントを前記第二サブシステムの別のレジストリに登録することを可能とし；
 - 前記別のプロキシクライアントからの別のリクエストを取り扱う別のプロキシサーバを前記第一情報処理サブシステムに生成することを可能とする、請求項13に記載の方法。

【請求項 1 5】

前記第一および第二サブシステムが、各々、各PCを有する、請求項13に記載の方法。

【請求項 1 6】

前記第一および第二サブシステムが、各々、各PCを有する、請求項14に記載の方法。